

次世代育成支援プロジェクト

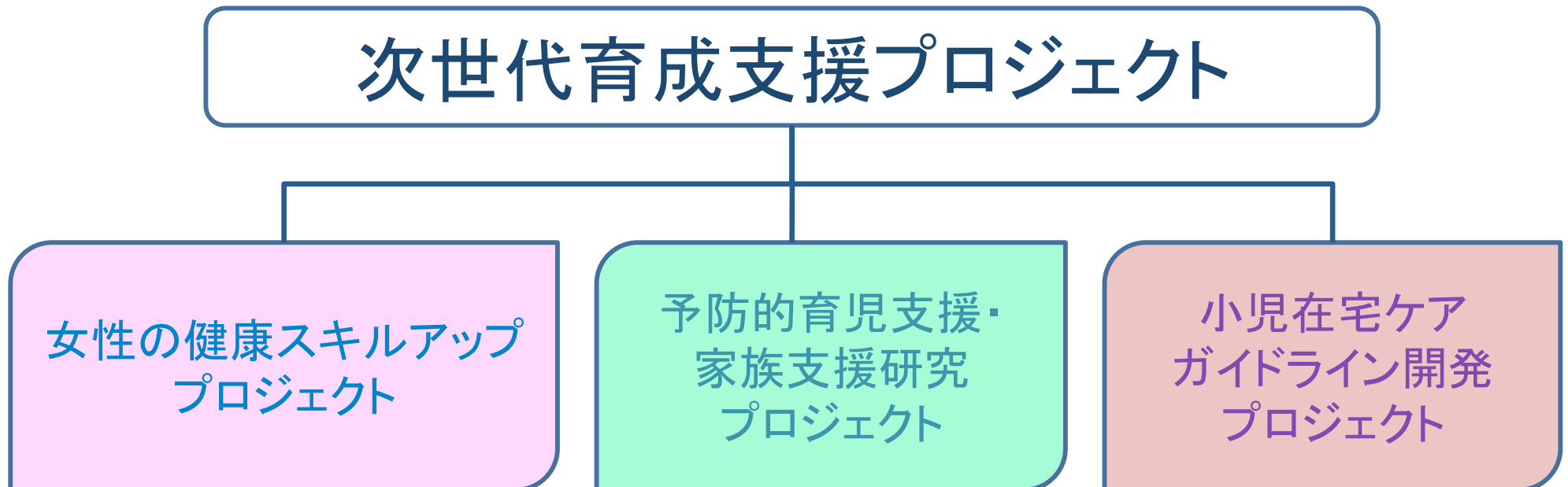
プロジェクトの背景

- ✓ 少子高齢化や家族の多様化が進む中、**健やかな次世代の育成は社会全体の課題**である。
- ✓ 次世代の子どもを産み育てる女性の健康への支援は欠かせない。
- ✓ 親の養育体験は少なく、**予防的育児支援プログラム**開発は社会全体の健康増進に役立つ。
- ✓ 高度医療の普及から**在宅で医療的ケア**を要する子どもや家族も増加し、支援ニーズが高い。

プロジェクトの目的

- ✓さまざまな発達段階や健康レベルにある女性・子ども・家族の健康問題の明確化と、より質の高い支援プログラムを開発し、新たな次世代育成支援モデルを構築すること。

プロジェクト全体のチーム構成



女性の健康スキルアップ プロジェクト



目的

- ①女性のリプロダクティブヘルスの向上を図る。
- ②妊娠・出産・育児を支援し、よりよい環境づくりを行う。

よって本プロジェクトでは、ライフサイクルの必要な時期に、性教育をはじめ正しい情報の提供や連携を行うことにより、女性とその家族における健康のスキルアップをはかることを目的とする。

女性とその家族における健康のスキルアップをめざした活動

女性のための健康応援セミナー ～月経と上手につき合おう～

日時：2009年10月15日（木）18：00～19：30

講師：加藤外科産婦人科乳腺クリニック
加藤久典 先生

場所：名古屋大学医学部保健学科 東館 大講義室
（最寄駅「なごやドーム前矢田」：地下鉄より徒歩10分、
JR大曾根より「ゆとりーと」1分+徒歩5分）

主催：名古屋大学医学部保健学科看護学専攻
女性の健康スキルアッププロジェクト

参加料：無料



「月経」って、女性にとってひいては人間にとって、とても大切なものと分かっていても、一方ではマイナスイメージの強いものでもあります。これを機会に、若い方、そうとは言えない方、男性、女性関係なく、一緒に「月経と上手につき合う方法」を学習しませんか。きっと今後の人生にプラスになるとと思います。

このたび「社団法人 日本家族計画協会 講演会助成事業」により、このような講演会を開催することとなりました。女性の健康スキルアップのためにも、健全は次世代育成のためにも、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

～「女性の健康スキルアッププロジェクト」メンバー一同～



お問い合わせ先：461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20
名古屋大学医学部保健学科看護学専攻 鈴木和代
TEL/FAX:052-719-1382 e-mail:ksuzuki@met.nagoya-u.ac.jp

<セミナーの開催(対象:大学生他)>

<性教育の実施(対象:小中学生とその家族)>

【次世代育成支援プロジェクト】 小児在宅ケアガイドライン開発プロジェクト

名古屋大学医学部保健学科

奈良間 美保 大須賀 美智 松岡 真里

茂本 咲子 田中 菜美子 杉本 智美

京都橘大学看護学部 堀妙子

日本二分脊椎症協会 河合裕子



【目的】 子どもの在宅ケアを検討し始めてから移行、継続するまでの子どもと家族を包括的に支えるためのガイドラインを開発する。

【次世代育成支援プロジェクト】

小児在宅ケアガイドライン開発プロジェクト

【プロジェクトの活動】

1. 小児在宅ケアガイドラインの作成

小児在宅ケアを継続している家族、支援に携わる看護師
に対する質問紙・面接調査に基づくガイドラインの作成

2. 小児在宅ケアコーディネーター研修会の開催

小児在宅ケアの包括的支援を中心的に担う人材の育成

対象 小児在宅ケアの支援に携わる看護師

方法 年3回シリーズ(6月・10月・12月)

講演・事例検討・グループワーク

場所 名古屋大学大幸キャンパス

3. 患者会との協働による生活相談

予防的育児支援・家族支援研究 プログラム開発プロジェクト

【目的】

1. 多様な家族の養育期家族プロセスモデル構築と支援

- 1) 発達障害の子どもを養育する家族
- 2) 多胎児を養育する家族
- 3) アレルギーの子どもを養育する家族
- 4) シングルマザーの子育てへの介入研究

2. Strength Based Approach に基づいた ライフスキル支援プログラムの開発と評価

- 1) Special needsをもつ家族への予防的育児支援プログラムの開発と評価
- 2) 育児支援スタッフ養成／スキルアップ研修

・ プロジェクトメンバー

代表 浅野みどり（名古屋大学医学部保健学科）

吉田久美子, 新家一輝（名古屋大学医学部保健学科）

門間晶子, 大橋幸美, 古澤亜矢子, 山本真実, 山北奈央子, 山口知香枝,
赤松園子, 加藤勝子（大学院医学系研究科 博士前期・後期課程）

杉浦太一, 佐合真紀（岐阜大学）, 古田恵香（元名古屋大学医学部附属病院）

山田知子, 三浦清世美（中部大学）, 土橋圭子（研究生）

Special needsをもつ子どもと家族への 育児支援活動； 活動例の紹介①

ANNUAL MEETING TO SUPPORT FAMILIES WHO HAVE TWIN CHILDREN WITH DISABILITY

Midori ASANO¹, MEd, Ph.D., Keiko FURUTA², MEd, Akiko KADOMA³, PhD, MEd, Haruko MURAKAMI⁴, EdD,
Kana YONEYAMA⁵, EdD, MEd, Yukiko OHASHI⁶, MEd, MEd, Tomoko YAMADA⁷, MEd, MEd, Taichi SUZUKI⁸, EdD, MEd.

¹ Nagoya University School of Health Sciences

² Graduate school of Nagoya University School of Health Sciences

³ Nagoya University Hospital

⁴ Gifu University school of Nursing

Purpose: To report our activity in annual summer meeting to support families who have twin children with disability since 2003, and describe our future goal.

Background: There are common difficulties in child rearing in the family who have twin babies. If one of the children or both children who were born in twin has disability, it is more difficult to rear them for their parents. They desire special support from peers and professional health care providers.

About meeting: Since July in 2003, the mothers in Twin Mothers Club members, as self help group, hold annual meeting for families who have twin children with disability. We were requested to help them for holding the meeting, then we have been collaborate them with our under graduate students in three universities. We made the program that was consisted of four parts; the amusement time with all family members, the welcome lunch, the playtime including their siblings with staff and the peer's discussion time in parents. Another volunteer members like a music band assisted in this event. We have been held this meeting at Daiko campus in Nagoya University.

Participants: Five to eleven families and about fifty staffs participated in the meeting at one time. The most of families participated in this meeting every year and there was an increase in participants of fathers. The Impressions of families for this meeting were following; "I'm appreciate that staff members took care of my children including siblings in 'man to man system'", "I'm glad to get useful advice from peers and to have my own time", "I hope the meeting will be held twice in the year". "We will participate this meeting next summer", "My kids looks like very happy." The other hand, there were great effect on not only families who have twin children with disability, but also under graduate and graduate students in three universities that located midland in Japan.

START
10:15

Implications: Our future goal is in that to continue and expand our activities, we are going to evaluate this program and try to get any fund.

Table 1. Participants in the Meeting

Kind of Participants	Year	
	2003	2008
DMC(MM)	7	16
Family(Family)	4 (1.5)	16 (11)
Volunteer Staff (TMC)	5	15
Healthcare Staff (Division of the Faculty of Nursing)	6	20
Total	27	66

(*) Twin Mothers Club

GOAL 15:00

Table 2. Characteristics of Disability of Children in 2008

Type of Disability	Number
Perceptive Developmental Disorder	6
- Asperger	1 (1)
- Autism	2 (2)
- Word syndrome/Autism	1 (1)
Cerebral Palsy (CP)	5
Mental Retardation (MR) = Nonverbal	1
CP+MR+Spina	1
Autism + Phenothiazol Inhibitor	1
Hydrocephalus + Deafness	1
SMR/MS	1
Stroke (without disability)	1
Total	29

LUNCH
12:00

PLAY IN THE
GARDEN

• Twin Mothers Club; TMC

「手をつなぐネットワーク

あいち集会」開催の支援

2000年～毎夏継続

2007年～夏／冬2回開催

- 多胎児の育児独特の問題＋子どもの障害にまつわる問題

- 大切にしてきたこと；

☆きょうだいを含めた家族参加。

☆きょうだい児も主役として、

大切にされ、おもう存分

遊べる会にしたい。

Special needsをもつ子どもと家族への 育児支援活動； 活動例の紹介②

- 「広汎性発達障害の子どもを
養育する家族の育児ライフスキ
ルプログラム開発に関する研究」
平成18-20年度 科学研究費補助金基盤研究(C)
- 研究目的； 単に専門知識を提供
するのではなく、母親の心身の
リフレッシュ, 癒しおよび育児関
連のライフスキルの向上を目的と
した看護支援プログラムの開発
- 現在第7期生実施中

<http://www.jsnhc.org.smc/>

メンバー；浅野みどり, 吉田久美子, 門間晶子, 大橋幸美
古澤亜矢子, 山本真実, 山北奈央子, 新家一輝

すきっぷ・ママ
クラスの特徴

少人数制の
6回シリーズ

問題の共有強
みの気づき育
児のヒント

バランスボール
アロマセラピー
ハーブティー

癒しの小箱



これまでの研究成果の概要と現在の取り組み



平成19年度の本プロジェクトによる調査

➤ 自閉症の幼児を養育する母親の育児ストレス(PSI-SF)と家族機能(FAI)、母親のQOL(WHO-QOL26)の関連

✓ 「家族機能」「母親のQOL」には「母親自身に関するストレス」が有意に関連する。

子どもの特徴に関するストレス < 母親自身に関するストレス

✓ “育児による心身不調の自覚”は母親のQOLと負の相関



子どもの療育や親の教育だけでなく、母親自身の心身のリフレッシュ、癒し、家族の育児関連ライフスキルの促進が必要！

これらを目的とした発達障害の子どもを養育する家族支援として「育児ライフスキル促進プログラム」を実施し、介入の効果を検証することに取り組んでいる。

バランスボールをつかったリフレッシュ！

すきっぷ・ママクラスセミナーの1コマ
バランスボール・エクササイズ



共感

語り

気づき



カードを使った「家族の価値」のセッション

すきっぷ・ママクラスセミナープログラム
一発達障害のお子さんを養育するお母さんたちと

ある修了生(母親)のコメント;
私が思っているようには子どもは動かないので、大変に思ったり、ストレスを感じていましたが、最近、子どもはそういうものだと思えるようになりました!



修了生の会を開催



共感

語り

気づき

